

県民のあゆみ

山形県広報誌



こまめな手洗い・手指消毒を



症状がなくともマスクは忘れずに



定期的に換気を



身体的距離を確保

公共の場でも新・生活様式が浸透しています。
(撮影場所:山形県立図書館)

「新・生活様式」で新型コロナウイルスを予防しましょう!

- P.2 新型コロナウイルス感染症 関連情報
- P.4 特集「山形の園芸農業を支える花き生産 ～競争力の高い産地を目指して～」
- P.8 奏であう人「自然と歴史を組み合わせる新たな地域資源に」
- P.16 やまがた伝説「松尾芭蕉像」

感染防止と経済回復の両立を目指して 過去最大となる6月補正予算を編成

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、国内でもいまだ収束の兆しが見えない中、県では、感染拡大防止の取組みと地域経済の回復を両立させるため、6月補正予算としては過去最大となる、総額**574億6,300万円**の補正予算を編成しました。その代表的な取組みの一部をご紹介します。

柱1

新・生活様式の定着関連

新・生活様式に対応する事業者の設備投資等への支援 **20億7,600万円**

新型コロナからの経済回復に向け中小企業・小規模事業者等が、新・生活様式、新・ビジネス様式に対応するために行う、店舗の改修、アクリル板やパーティションの設置、換気装置など感染防止対策のための設備投資等に対し、市町村と連携して支援します。



新・生活様式の定着が感染予防の基本

柱2

産業振興、経済活性化

商工業振興資金の拡充（無利子融資枠の拡大） **283億7,700万円**

地域経済を支える中小企業・小規模事業者等の事業継続を支援するため、市町村や金融機関と連携しながら実施している商工業振興資金を大幅に拡充しました。他県でも例を見ない、10年間が無利子・無保証料となる、事業者にとって非常に有利な制度です。



事業継続を全力で支援

柱3

学校教育環境等の整備

県立・私立高校のオンライン学習に向けた端末等整備 **1億5,100万円**

感染症への対応が長期化する懸念があることから、インターネット環境が整っていない高校生の家庭での学習を支援するため、貸出用のタブレット端末やモバイルルータを整備することで、全ての生徒が安心してオンラインで学習できる体制を整えます。



オンラインの学習環境を確保

柱4

医療提供体制の強化等

新型コロナ対応従事者への慰労金給付 **57億9,100万円**
民間医療機関に対する支援金の給付 **4億3,400万円**

政府の第2次補正予算を活用し、新型コロナの拡大防止に尽力されている医療機関や社会福祉施設などの職員の方々に慰労金を給付します。さらに、3密対策や衛生管理面で尽力いただいた児童関係施設の職員の方々にも、本県独自に慰労金を給付します。



子どもの居場所確保を担う児童関係施設



地域医療を支える医療従事者

経営に大きな影響が生じている民間医療機関において、地域の医療提供体制を守り抜き、使命感を持って新型コロナのさらなる波に備えていただけるよう、病院には50万円、診療所には30万円の支援金を給付します。

柱5

学生への支援

県内・県外の学生や県内留学生への支援 **1億4,700万円**

新型コロナにより経済的な影響を受けている県内の学生・留学生や、県外に在住する本県出身の学生に対し、県産米などの「食」を提供します。また、県内の学生・留学生に対しオンライン授業の環境整備など、修学継続を支援します。



山形自慢の「食」で支援

県民の皆さまと共に新しい日常へ

新型コロナの感染防止にあたり、県民の皆さまお一人おひとりに、感染防止の基本となる「新しい生活様式」をしっかりと実践していただき、また、事業者の皆さまには、業種別の「感染拡大予防ガイドライン」に基づき適切に取り組んでいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

県としましては、今後も、検査体制や医療提供体制の充実と県内経済の回復に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、ご協力くださいますようお願いいたします。

また、5月に設定した注意・警戒レベルについて、検査体制や医療提供体制の充実等、状況の変化に対応した見直しを行っておりますので、ご理解くださるようお願いいたします。

県民の皆さま、事業者の皆さま、共にコロナの波を乗り越えましょう。

山形県知事 吉村美栄子



山形県における新型コロナ対応の目安[注意・警戒レベル]

見直しました

5月の注意・警戒レベルの設定後、県内では検査体制や医療提供体制が充実し、県民の皆さまに「新しい生活様式」の定着が進み、事業所では感染拡大予防ガイドラインに沿った取組みが行われています。こうした状況の変化を踏まえ、次のとおり見直しました。

	状態	参考とする指標等	対応検討策
レベル1	県内では確認されていないが、国内で感染者が確認されている状態	-	<ul style="list-style-type: none"> 県民は「新・生活様式」の実践を心がける 事業者は、業種別の感染拡大予防ガイドラインに取り組む 感染が増加している地域への移動はできるだけ控えるよう、県民に呼びかけ なお、必要があって移動する場合は、移動先での「新・生活様式」を徹底するよう、呼びかけ
レベル2 【注意】	県内での感染者の確認が限定的な状態	【1週間あたりの新規感染者数】 1人/週 以上	<ul style="list-style-type: none"> レベル1に加え、 「新・生活様式」の実践及び業種別感染拡大予防ガイドラインの徹底を県民と事業者に呼びかけ 発熱等の症状がある方への早期受診相談の呼びかけ 業界団体に対し、ガイドライン実践の自主点検を依頼
レベル3 【警戒】	感染の広がりが懸念される状態	<ul style="list-style-type: none"> 【感染経路不明者数】 1人/週 以上 【重症入院患者数】 1人以上 以下の指標も参酌する。 【1週間あたりの新規感染者数】 【60歳以上の入院患者数】 	<ul style="list-style-type: none"> レベル2に加え、 感染発生状況や特徴に応じた注意喚起や感染防止対策の徹底を協力依頼 例：高齢者や基礎疾患のある重症化リスクの高い方に対し、より慎重な行動を呼びかけ 感染が発生した施設と同様の業態の業界団体及び事業者に対し、ガイドライン遵守の徹底を依頼 など
レベル4 【特別警戒】	感染が拡大傾向にある状態	<ul style="list-style-type: none"> 【感染経路不明者数】 2人/週 以上 【重症入院患者数】 3人以上 以下の指標も参酌する。 【1週間あたりの新規感染者数】 【60歳以上の入院患者数】 	<ul style="list-style-type: none"> レベル3に加え、 感染発生状況や特徴に応じた行動を協力依頼 例：ガイドライン実践施設の利用を呼びかけ 実践していない施設の利用を控えるよう呼びかけ
レベル5 【非常事態】	感染が拡大し、医療提供体制のひっ迫が懸念される状態	<ul style="list-style-type: none"> 医療現場のひっ迫状況を踏まえて判断 以下の指標も参酌する。 【重症入院患者数】 【1週間あたりの新規感染者数】 【60歳以上の入院患者数】 	<ul style="list-style-type: none"> 県独自の非常事態宣言の発出 新型インフルエンザ等対策特別措置法第24条第9項に基づき次の事項を協力要請 不要不急の外出自粛 ガイドラインを実践しない施設の利用自粛 ガイドラインを実践しない施設の営業自粛(休業)

◆各レベルの適用にあたっては、上記内容に加え、県内における感染の具体的状況(地域分布、クラスター発生状況等)や、首都圏や近隣県の感染状況なども踏まえ、全体的に判断します。

なお、感染状況によっては、地域を特定した対応策を検討します。

◆この目安は、新型コロナに関する今後の状況変化に応じて随時見直すこととします。

▶問い合わせ ◎ 防災危機管理課 ☎023-630-2230

『競争力のある力強い農林水産業の振興・活性化』

第4次山形県総合発展計画の実現に向けて取り組む5つの政策の柱について、
主要な取り組みを紹介するシリーズの第2回目です。

特集 山形の園芸農業を支える花き生産 ～競争力の高い産地を目指して～



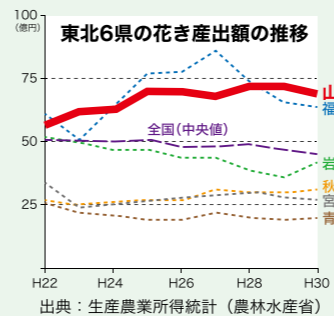
花きは、露地と施設を組み合わせた通年生産が可能で、農地と労働力を有効に活用できる高収益作物です。県では、県産花きの消費や産地の拡大に向けた取り組みを進めています。

山形の花き生産の歴史と強み

本県では昭和40年代からの米の生産調整に伴い、転作田を活用した花きの栽培が始まりました。菊の露地栽培をきっかけに、花きが高収益作物として注目され、昭和50年代にはハウスでの栽培が広がり、品目数・出荷量ともに増加しました。昭和60年代以降は、景気拡大とともに日本全体の花き消費量が増え、全国で花きの生産が盛んになりました。その中でも、本県は昼と夜の温度差が大きく、他県と比べ秋が涼しいといった気象条件を生かし、夏秋に品質の優れた花を出荷する産地として高い評価を受けています。

本県の花き生産の現状

近年、人口減少等の影響で国内の花き産出額は減少傾向にあります。が、本県は、消費者が求める品目の生産や、出荷時期の延長など、



消費拡大への取り組み

県では、生産団体と流通・小売団体で組織する山形県花き生産連絡協議会とともに、県産花きを積極的にPRしています。首都圏での宣伝や、やまがたフラワーフェスティバルに加え、今年度から新たに、県産花きに触れてもらう取り組みを始めました。

①花育の推進 ～学校に花を飾ろう～

県内の小中学校及び特別支援学校に、年5回、県内で生産された季節の花を贈っています。子どもの頃から花に親しむ機会を増やすことで、県産花きへの愛着を育みます。



②素敵な県産花きでお出迎え

県内主要駅や空港など本県の玄関口や、やまぎん県民ホール、伝国の杜などの多くの人が訪れる公共施設に、県産花を使ったフラワーアレンジメントを展示しています。県民の皆さん・県外からのお客様に、県産花きの魅力を実感してもらい、日々の暮らしに取り入れていただきたいと考えています。

産地拡大への取り組み

産地を拡大するには、生産性と品質向上に取り組みながら、産地間競争を勝ち抜く力が必要です。そのためには生産規模の拡大と技術面での革新が不可欠です。県では園芸産地のさらなる拡大に向け、ハードとソフトの両面から支援しています。

①機械化・団地化で生産効率化

ハード面では、花き農家が行う栽培施設の整備や機械の導入費用に対して市町村と連携して支援しています。また、酒田市、東根市、西川町では、大規模園芸団地を形成し、花きの販売額1億円以上を目指して生産規模の拡大に取り組んでいます。

②新技術導入で競争力アップ！

ソフト面では、園芸農業研究所が中心となり、新たな技術の開発とその導入・定着を図っています。ストックでは、開花を早めたり遅らせたり調整できる技術を開発し生産時期をコントロールすること、切れ目なく出荷可能な産地づくりを進めています。



出荷時期が広がったストック

③栽培継続を支援（新型コロナウイルス対応）

4月の緊急事態宣言以降、花きの需要と消費が落ち込み、生産者からは「売上げが減少し、次の生産の準備ができない」という声が上がりました。そこで、価格低迷の影響を受けた品目の生産が途切れないように、必要となる種苗の購入費を補助しています。

トピック 果樹や野菜花きの新たな研究拠点「園芸農業研究所」開所！

研究所(旧園芸試験場)は、さくらんぼの大玉新品種「やまがた紅王」など多くのオリジナル品種や、果樹、野菜、花きの生産技術を開発してきた施設です。平成29年度から3年をかけて、研究・栽培施設や研修棟を整備し、機能を強化しました。今後も、園芸農業の可能性をさらに広げる研究開発を進めていきます。

7月10日の開所式の様子

ど、選ばれる産地づくりに取り組み、産出額は東北一となっています。

内訳を見ると、ばらやトルコギキョウなどのハウス栽培の花きが上位を占め、アルストロメリアやストックも全国上位の産出額を誇ります。また、お正月から卒業・入学式シーズンに飾られる啓翁桜は全国シェア9割と本県産の独壇場です。最近では、球形の白い花を咲かせるスノーボールなど、消費者・生花店から人気のある新しい品目の生産も盛んです。

本県の花き生産の品目別産出額（主なもの）

品目	産出額(億円)	備考
ばら	14	全国3位、東北1位
トルコギキョウ	7	全国5位、東北1位
ゆり	6	東北2位
花壇用苗もの	6	東北1位
アルストロメリア	5	全国3位、東北1位
ストック	5	全国2位、東北1位

出典：生産農業所得統計（農林水産省）

コロナ禍により、家庭で過ごす時間が増える一方、イベントの在り方も変わるなど、花きの利用場面も変化すると見込まれています。県では新たな消費動向に対応しながら、本県の花き生産のさらなる振興を目指しています。今回は、その取り組みの一部をご紹介します。

やまがたフラワーフェスティバル2020のご案内

県内最大の花き品評会です。魅力たっぷりの入賞作品をぜひご覧ください。

場所：小真木原総合体育館（鶴岡市小真木原町2-1）
日時：10月17日(土) 10:00～16:00
10月18日(日) 10:00～14:00
※開催内容は変更になる場合があります。

入場無料

昨年(2019年)のフラワーフェスティバルの様子

「園芸大国やまがた」に向けて

花きは、さまざまな品種や栽培方法、ほかの作物との組み合わせにより、一年を通し、安定した農業経営が期待できる作物です。安定した農業経営は人材確保と定着につながります。実際に、各地の生産組織では30代、40代のリーダーが現れ、若い世代を指導しながら、これまで培ってきたノウハウを継承しています。県では、引き続き消費者ニーズに沿った花き生産を支援し、産地をさらに発展させることで、「園芸大国やまがた」を実現していきます。

ぜひご覧ください！

県政テレビ番組
いき☆いきやまがた
放送のご案内

「地域と共に次の世代へ！農林水産業の振興と活性化」と題して県内民放4局で特別番組(30分)を放送します。

さくらんぼテレビ(SAY)
●9月5日(土)午後4時～

山形テレビ(YTS)
●9月13日(日)午後4時～

山形放送(YBC)
●9月20日(日)午後4時25分～

テレビユー山形(TUY)
●9月27日(日)午後3時30分～

放送時間は変更になる場合があります。

▶問い合わせ ◎ 園芸農業推進課 ☎023-630-3380

魅力あふれる山形の日本遺産！

日本遺産は、地域の歴史的な魅力や特色を通して日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、国内外に戦略的に発信することで地域活性化を図るものです。全国で104件、本県からは4件が認定されています。

県では日本遺産の認定を契機に、地域の宝として継承されてきた文化財を積極的にPRし、その価値や魅力を一層高め、観光振興や県全体の活性化につながるよう取り組んでいます。今回は、県内の日本遺産の見どころや取り組みの一部をご紹介します。



酒田市 鶴岡市 ほか15道府県46市町

北前船寄港地・船主集落



日和山公園

荒波を越え各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地は、男たちの夢が紡いだ異空間

見どころ
日和山公園、本間家旧本邸、山王くらぶ、山居倉庫、善賢寺五百羅漢堂



酒田舞娘

主な取り組み
新たな旅行商品の造成と販売、WEB版北前船講座、東京メトロ観光プロモーション、北前船「海の学校」ワークショップ等



山王くらぶ

詳しくは



鶴岡市 サムライゆかりのシルク



松ヶ岡開墾場

旧庄内藩士たちの開墾に始まる、日本近代化に貢献したジャパンシルク源流の地

見どころ
松ヶ岡開墾場、旧西田川郡役所(致道博物館)、旧遠藤家住宅(多層民家)、旧風間家住宅丙申堂



旧西田川郡役所

主な取り組み
シルク、クラフト等をテーマにした松ヶ岡イベントの開催、高校生と連携した「シルクタウン・プロジェクト」、松ヶ岡開墾場の展示・整備等



シルクタウン・プロジェクト

詳しくは



鶴岡市、西川町、庄内町 出羽三山「生まれかわりの旅」



羽黒山の峰入り

自然と信仰の結びつきを今に伝える、現在・過去・未来を巡る「生まれかわりの旅」

見どころ
出羽三山(羽黒山、月山、湯殿山)、六十里越街道、旧日月寺本堂、清川関所跡、出羽三山の精進料理



月山と羽黒山大鳥居

主な取り組み
地域の人材交流や活動を支援するワークショップの開催、HP等での情報発信等



出羽三山の精進料理

詳しくは



山寺と紅花 山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町、大石田町、白鷹町



旧柏倉家住宅

円仁・芭蕉ゆかりの古刹「山寺」と、今に息づく華やかな紅花文化

見どころ
山寺、紅花畑の景観、林家舞楽、旧柏倉家住宅、ひな市(ひなまつり)、紅花屏風



山寺(仁王門)

主な取り組み
ガイド人材の育成、「山寺と紅花」アンテナショップの設置、紅花畑の景観づくりや紅花料理等の継承者の育成支援等

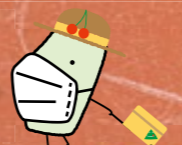


「山寺と紅花」アンテナショップ

詳しくは



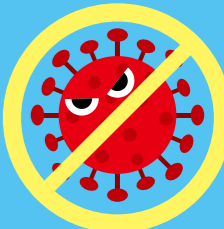
山形県は日本遺産の数が東北一。皆さん、県内の日本遺産を巡って、郷土の歴史や文化に触れ、その魅力を体感し、県内外に発信しましょう！



▶問い合わせ © 文化振興・文化財課 ☎023-630-3342

日本遺産 山形

9月は山形県防災月間です。キーワードは「自らの命は自らが守る」



新しい避難行動

世界的大流行となった新型コロナウイルス感染症。本県でも感染者が確認され、日常生活や経済活動に深刻な影響が生じています。感染予防と経済活動を両立するため、新しい生活様式に基づいた行動が求められる中、災害からの避難の在り方も変わってきました。今回は、新型コロナに感染しないための避難行動をご紹介します。

新型コロナウイルス対策を踏まえた避難行動は？

●あらかじめ災害リスクを把握し、複数の避難先を確保

- ◎避難とは「難」を避けること。平時からハザードマップで自宅や職場の危険度を確認し、周囲の**災害リスクと指定避難所**を把握しましょう【図1】。
- ◎「3密回避」のため、避難所の収容可能人数が従来よりも減少します。**指定避難所以外にも、安全な親類・知人宅やホテル等**への避難も検討しましょう【図2】。
- ◎やむを得ず車中泊する場合は、浸水や土砂崩れ等に巻き込まれないように周囲の状況を十分に確認しましょう。

【図1】日頃からの備えが大事



【図2】避難所以外も検討を



●感染症対策を意識して、災害時の備えを見直し

- ◎災害発生時は、これまでよりも衛生用品の入手が困難になる恐れがあります。
- ◎これまでの非常持出品に加え、**マスク・体温計・消毒液・上履き・ゴミ袋**も新たに携行しましょう【図3】。
- ◎様々な避難先を想定し、日常の食品・物品を、買い足しながら賢く備蓄する**ローリングストック**にも取り組み、災害時にはためらわず避難しましょう。

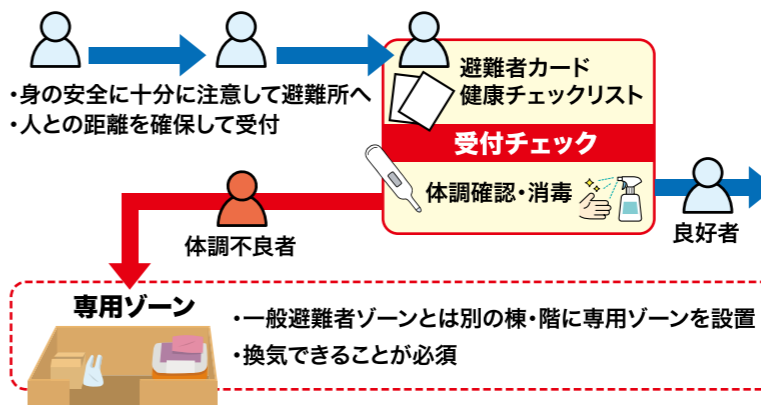
【図3】非常持出品を充実・強化!



避難所では「3密回避」と「衛生管理」を徹底!

- ◎避難所という密になりやすい空間では、被災者はもちろん、避難所運営スタッフの感染を防ぐため、**感染拡大防止策を徹底**することが極めて重要です。
- ◎今後の避難所運営では、**体温測定や体調の確認**、定期的な**換気**や**消毒**などの業務が新たに発生します。避難の際は、こうした点についてご理解いただくとともに、運営へのご協力をお願いします。

これからの避難所運営のイメージ



「一般避難者ゾーン」でも感染対策を徹底

- ・避難者ごとの居住スペースを分散
- ・避難所内の各所に消毒液を配置
- ・避難所内の定期的換気(30分に1回)
- ・蛇口、ドアノブなどの消毒(1時間に1回)
- ・避難者、スタッフの定期的な体温・体調確認
- ・せきエチケットや手洗い方法等のポスター掲示
- ・保健所との連絡手段の確保、保健師の巡回指導

避難所は「自分たちの地域は自分たちで守る」共助での運営が基本です。所属する町内会や自主防災組織の訓練には積極的に参加し、有事に備えましょう。

▶問い合わせ © 防災危機管理課 ☎023-630-2671

人であらう奏

vol.56



石沢孝浩さん(山形市)

昭和42年生まれ、山形市出身・在住。「東沢古道保存会」会長。「テレマーク & マウンテンガイド IDEHA」主催。「東沢古道保存会」は2018年12月に発足し、「蔵王古道」を整備し山岳観光資源として地域の発展に寄与している。また、登山ガイド、バックカントリースキーツアーガイドのほか雪崩事故防止講習会などを開催している。日本山岳ガイド協会認定ガイド、東北山岳ガイド協会会員、日本テレマークスキー協会公認指導員。



山岳ガイドでもある石沢さんは「やまがたカルチャー&健康スポーツセンター」で『基礎から学ぶ安全で楽しい登山』の講師も務める。座学と実践登山を通して、基礎から山登りの実力を身に付けていく教室。写真は参加者と鳥海山山頂で。

自然と歴史を組み合わせて新たな地域資源に

信仰の道「蔵王古道」を再生し地元の活性化に取り組む石沢さん、地域おこしの拠点となるカフェを営みながら、三淵渓谷の美しさと歴史を伝える横山さんにお話しをうかがいました。



横山直幸さん(長井市)

昭和50年生まれ、長井市出身・在住。「春まちカフェ」を営みながら、高齢者の集いの場や街おこしイベントを企画・運営。また、地元NPO「最上川リバーツーリズムネットワーク」の三淵渓谷ツアーの船頭・観光案内人を務めるほか、里山を中心に地域を巡るサイクリングツアーを開催するなど、地域と自然と人をつなぐ地域密着型の事業を行っている。山形鉄道フラワー長井線の元車掌兼観光ガイド。



三淵渓谷ポート参拝ツアーは、環境に配慮した電気モーターの船外機を使用して運航する。新型コロナウイルス感染対策のため、現在は貸し切り予約のみ(7月末時点)。写真は渓谷の入口、岸壁がそびえ立つ狭間を進んでいく。

地元の文化の掘り起こし、活性化が活動の発端

山形市東沢地区の宝沢には、蔵王詣での最古の登拝道と伝わる宝沢口があり、その歴史は奈良時代までさかのぼります。石沢さんは言います。

「加茂雷神社には、明治33年に奉納された大絵馬が残っており、蔵王最高峰の熊野岳山頂まで続く白装束の参拝者の列が描かれています。しかし、昭和初期以降は使われなくなり、70年以上放置されていました。ヤブで覆われ失われていた古道を、地元の人に聞いたり踏み跡を探しながら復活させました」。

保存会には、地元在住の正会員20名、ファンクラブ30名ほどが参加し、整備や研修会を行っています。

一方の横山さんは、進学、就職で地元を離れていましたが、帰省のたびに活気を失っていく故郷を何とかしたいとの一念でUターンしました。

「現在は『春まちカフェ』を、山形鉄道応援と地域を元気にする拠点として、商店街とのコラボ市など、さまざまな事業を行っています」。

自然と歴史の両面から地域の魅力を再発見

自身の活動に加え、ポートによる三淵渓谷参拝ツアーにも関わる横山さんは、その魅力をこう話します。

「渓谷は長井ダムの最奥にあり、断崖絶壁からなる神秘的な絶景。秋には見事な紅葉に囲まれます。また、長井の伝統行事『黒獅子舞』のルートと伝わる三淵神社が渓谷入口の高台にあり、自然と町の文化、地域の歴史が深くつながっていることを教えてくれます」。

石沢さんがこれに応えます。「私は、ツアーガイドなどで山に入るとき、必ず一礼します。登山道の多くは古からの祈りの道で、山登りとしての楽しみだけではなく、お山参りの歴史や由来を知り、先人たちと同じ思いを共有できる魅力があります。山岳観光資源として、その両面が必要だと思えます」。

「今、見えている自然の魅力に加え、その背景を知ること、楽しみ方にさらに奥行きが生まれますね」。そう横山さんも声をそろえます。

県民一人ひとりが山形の自然案内人に

石沢さんが言葉をつなぎます。「歴史や先人を想うと、整備と言っても、コンクリートの道にはしなくてもいいはず。昔の自然のままの道として必要最低限の整備に抑えるよう心がけています」。

また、活動を続けるうえで大切なのは人だと考えています。現在は、さまざまな職業、経験をもった地元の人たちが関わり、新しいアイデアや活動の幅が広がっています。今後は古道案内ガイドの育成にも積極的に取り組んでいきたいと思えます」。

横山さんも大きくうなずきます。「同感です。私の活動も人とのつながりからジャンルが広がっています。県外に一度出て感じたのは、山形県には山・川・海・空と、アウトドアの選択肢がそろっていること。年齢や体力に合わせた多彩な楽しみ方ができます。自然の素晴らしさを体験し、県民のみんなが案内人になれるといいですね」。



県議会だより

県議会の最新情報

コチラから
今すぐアクセス!



6月定例会の概要

令和2年6月定例会は、6月16日から7月3日までの18日間の会期で開催され、新型コロナウイルス感染症への対応を含む令和2年度一般会計補正予算など知事提出の22議案を可決・同意しました。
また、2件の請願を採択するとともに、3件の意見書を可決し、国に提出することとしました。
主な質疑内容は、次のとおりです。

代表質問の質疑内容

自由民主党 矢吹 栄修 議員 (山形市選挙区) 6月19日

- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策の総括と新未来への展望について
- ◆ 補正予算の編成方針と今後の財政運営について
- ◆ 県におけるICT化に向けた対応について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症による子育て世帯への影響と支援策について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症への対応について
- ◆ 企業の事業継続に向けた支援策について
- ◆ 今後の消費拡大策について
- ◆ 観光業の復興について
- ◆ さくらんぼ農家への支援策について
- ◆ 水産振興条例について
- ◆ これからの公共工事のあり方と少雪への対応について
- ◆ ICT教育と教育課程の対応について

県政クラブ 吉村 和武 議員 (山形市選挙区) 6月19日

- ◆ 新型コロナウイルス感染症への今後の対応について
- ◆ 県と市町村の連携と新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について
- ◆ 緊急経済対策の成果について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた少子化対策について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症のリスクを踏まえた農林水産業の振興について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた第6次教育振興計画の推進について
- ◆ ICT教育の推進について

一般質問の主な質疑内容

自由民主党 五十嵐 智洋 議員 (長井市・西置賜郡選挙区) 6月22日

- ◆ 合計特殊出生率の知事公約について
- ◆ 廃校舎の解体費用に対する財政支援について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける介護事業所への支援についてなど

県政クラブ 原田 和広 議員 (山形市選挙区) 6月22日

- ◆ 「科学的根拠に基づく政策形成(EBPM)」と新型コロナウイルス感染症対策について
- ◆ PCR検査、抗体検査に係るランダム調査と隔離政策の運用について
- ◆ 実存的な苦悩と「オープン・ダイアログ」の可能性についてなど

自由民主党 鈴木 孝 議員 (東村山郡選挙区) 6月22日

- ◆ 山形県の子育て支援策の新たな展開について
- ◆ 有機エレクトロニクス関連産業の振興の現状と今後の施策の方向性について
- ◆ 地域を題材とし体験を重視する総合的な学習の時間の充実についてなど

自由民主党 梶原 宗明 議員 (酒田市・飽海郡選挙区) 6月24日

- ◆ エネルギーミックスを見据えたエネルギー基地としての酒田港の整備について
- ◆ 水産振興についてなど

日本共産党山形県議団 関徹 議員 (鶴岡市選挙区) 6月24日

- ◆ 新型コロナウイルス感染症に立ち向かう理念について
- ◆ 新型コロナウイルス禍での教職員体制の強化と少人数学級推進についてなど

自由民主党 棟津 博士 議員 (寒河江市・西村山郡選挙区) 6月24日

- ◆ 山形県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症による休校により児童生徒が受けた心身のケアについてなど

自由民主党 奥山 誠治 議員 (山形市選挙区) 6月25日

- ◆ 北朝鮮による拉致問題への対応について
- ◆ マルチサポートセンターの充実についてなど

無所属 今野 美奈子 議員 (鶴岡市選挙区) 6月25日

- ◆ 羽越本線の機能強化と羽越新幹線の実現について
- ◆ 学校における「新しい生活様式」のためのガイダンスカウンセラー等の人員配置増についてなど

自由民主党 小野 幸作 議員 (寒河江市・西村山郡選挙区) 6月25日

- ◆ 分散型社会への移行と移住・定住施策の推進について
- ◆ 外国人介護人材の受入支援についてなど

県政クラブ 青木 彰榮 議員 (長井市・西置賜郡選挙区) 6月26日

- ◆ 売電先の選定状況と新規中小水力発電の開発について
- ◆ 有害鳥獣の生息数の抑制と鳥獣による農作物被害の拡大防止についてなど

自由民主党 星川 純一 議員 (酒田市・飽海郡選挙区) 6月26日

- ◆ 新型コロナウイルス感染症への対応について
- ◆ 危機管理道路としての道路整備についてなど

追加提出案件に対する質疑

6月定例会最終日、今定例会中2度目となる追加提案が行われました。閉会日の追加提案は、質疑を省略し各常任委員会に付託することが多いのですが、審査の慎重を期すため、異例の質疑が行われました。
主な質疑内容は、次のとおりです。

自由民主党 奥山 誠治 議員 (山形市選挙区) 7月3日

◆ 令和2年度山形県一般会計補正予算(第4号)について

日本共産党山形県議団 渡辺 ゆり子 議員 (山形市選挙区) 7月3日

◆ 令和2年度山形県一般会計補正予算(第4号)の趣旨について

新型コロナウイルス感染症対策の更なる強化を求め国へ意見書を提出

感染拡大の第2波、第3波が懸念される中、より確実な感染防止対策と社会経済活動の両立を図るため、国に対して、7項目からなる意見書を提出しました。



新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の様子

山形県議会定数等検討委員会を設置

次期県議会議員選挙に向けた県議会における議員の総定数、選挙区、選挙区別定数などの調査検討を行うため、7月3日に山形県議会定数等検討委員会を設置しました。
委員長には田澤伸一議員、副委員長には木村忠三議員が選出されました。



定数等検討委員会のメンバー

6月定例会で採択された請願

- 免税軽油制度の継続を求める意見書の提出について
- CSF(豚熱)ワクチン接種推奨地域への指定について

6月定例会で可決した意見書

- 軽油引取税の課税免除措置の継続を求める意見書
- CSF(豚熱)ワクチン接種推奨地域への指定を求める意見書
- 新型コロナウイルス感染症対策の更なる強化を求める意見書

新型コロナウイルスからみんなを守る想い…県議会ギャラリーでリレー

県内の学生の作品を展示する「県議会ギャラリー」では、6月定例会期間中、県内高校生による「新型コロナウイルスからみんなを守る県民リレー」感染防止対策メッセージカードを展示しました。あわせて、賛同した議員も参加し、想いを込めたメッセージカードを掲示しました。



県議会ギャラリーの様子



議員からのメッセージ

山形の初夏の味をPR!!

山形の初夏を真っ赤に彩る「さくらんぼ」が今年もたわわに実りました。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で、さくらんぼなどの高価格帯の果物が、全国的に販売不振になっています。

そこで、山形を代表するさくらんぼの販売促進や消費拡大につなげるため、6月定例会の会期中、議会正面ロビーにさくらんぼの木を展示しました。



正面ロビーの様子

県議会の情報は、山形県議会ホームページに満載です。ぜひご覧ください!!

- 1 定例会の概要や議会の日程
- 2 議会の生中継やこれまでの質疑の様様
- 3 可決した意見書・決議の内容
- 4 各常任委員会・特別委員会での質疑内容
- 5 会派ごとの議案等に対する賛否状況 など

村山

消費者と生産者をつなぐ「青空市場」

てつぼう町青空市場は、村山地域の農業者が、①地産地消の推進、②地域農業の活性化、③新規就農者の育成等を目的に開催している朝市です。村山地域における直売活動の先駆けとして取組みを始め、今年で20年目を迎えます。旬の野菜、果物といった新鮮な農産物や加工品を、生産者が対面で直接販売しており、毎回、開催を楽しみにして下さる常連のお客様がたくさんいらっしゃいます。

例年、5月から12月の第1、第3日曜日の午前8時から9時まで、村山総合支庁（山形市鉄砲町）を会場に行っています。今年は新型コロナウイルスの影響により、6月まで開催を見合わせていましたが、7月から、十分な感染予防対策を取ったうえで再開しました。

朝のすがすがしい空気と青空のもと、元気な生産者の皆さんとおいしい農産物との出会いを求めに、ぜひ足を運んでみてください。



問い合わせ ◎ 村山総合支庁農業技術普及課 ☎023-621-8295

開催情報は 村山旬の市

名古屋

ふるさとを応援く東海山形県人会

東海山形県人会（今田正則会長）は、昭和50年に発足して今年で46年目を迎える会員数約二百名の団体です。ふるさと山形の応援団として、精力的に活動しています。毎年6月の総会・懇親会では、知事や県出身芸能人を招いて会員の交流を深め、8月の広小路夏まつりでは、夜のパレードに参加し花笠踊りで名古屋の中心街を練り歩きます。また、久屋大通公園が会場となる9月のふるさと全国県人会まつりでは、花笠踊りの披露、県産酒や玉こんにゃくの販売などで、本県の魅力を積極的にPRしています。新型コロナウイルスの影響で多くの行事が中止となっていますが、今年も、会員や山形にゆかりのある方が大勢参加する恒例の大半煮会の開催に向け、準備を進めています。今後も名古屋事務所では県人会の皆さんと一緒に、山形の最新の話題や観光物産情報を発信し、東海地区の山形ファン拡大に取り組んでいきます。



昨年のふるさと全国県人会まつり

問い合わせ ◎ 県名古屋事務所 名古屋市中区栄4-16-36久屋中日ビル4階 ☎052-265-9841

県内 おすすめ 文化・スポーツ情報

おうちで山響！ ネットでも映像配信中

演奏会配信
クラシック専門動画配信サービス「カーテンコール」
http://curtaincall.media/yamakyo.html

公式YouTubeチャンネル
テレワーク・アンサンブルや「こんなところで花笠音頭」など、山響らしさを感じられる企画を発信中！
https://www.youtube.com/c/YamagataSymphonyOrchestra

文化イベント・施設の利用やプロスポーツ観戦をお得に！

山形交響楽団の鑑賞券や美術館の入場券等の購入、県内プロスポーツチームの観戦チケット・グッズ購入時に、500円毎に250円の割引が適用されるキャンペーンを実施中！

◎詳しくは
やまがたの文化応援キャンペーン
やまがたプロスポーツ応援キャンペーン

ふるさと納税でプロスポーツ・文化施設を応援！

山形を拠点に活躍するプロスポーツチーム、文化芸術を身近に親しむことができる文化施設が、新型コロナウイルスの影響により、依然厳しい状況にあります。そこで、プロスポーツチームや文化施設の活動を応援するため、クラウドファンディング型ふるさと納税による寄附を受け付けています。ご協力をよろしくお願いいたします。

●寄附金の活用内容

- ・県内プロスポーツ選手の競技力向上に向けた支援
- ・試合会場や地域が賑わうイベント等への支援
- ・文化施設の魅力ある企画や来館者のための快適な施設環境づくりへの支援

●寄附の方法
ふるさと納税専用サイトよりお手続きください。

●その他
ふるさと納税による寄附金税額控除が受けられます。

詳細はこちら

プロスポーツゲーム情報

「モンテディオ山形」ホームゲーム

日付	対戦チーム
9月2日(水)	レノファ山口FC
9月9日(水)	アビスパ福岡
9月19日(土)	ギラヴァンツ北九州
9月26日(土)	ジュビロ磐田
10月3日(土)	松本山雅FC
10月10日(土)	FC琉球
10月17日(土)	愛媛FC
10月24日(土)	東京ヴェルディ

※最新の試合日時はホームページをご覧ください。
◎会場：NDソフトスタジアム山形(天童市)
◎詳しくは モンテディオ山形

「パスラボ山形ワイヴァンズ」ホームゲーム

日時	対戦チーム【会場】
10月10日(土) 午後6時	福島ファイヤーボンズ【県総合運動公園(天童市)】
10月11日(日) 午後2時	
10月24日(土) 午後5時	バンビシヤス奈良
10月25日(日) 午後2時	【南陽市民体育館(南陽市)】
10月28日(水) 午後7時	茨城ロボッツ【県総合運動公園(天童市)】

◎詳しくは パスラボ山形ワイヴァンズ

文化関係：◎文化振興・文化財課 ☎023(630)3342 スポーツ関係：◎スポーツ振興・地域活性化推進課 ☎023(630)3156・2284

※7月31日時点の情報です。新型コロナウイルスの影響で変更となる場合がありますので、事前に☎にご確認ください。

美食レシピ 香り、味、形の三拍子そろった一級品 最上小国川の「鮎」

最上町と舟形町を流れる一級河川「最上小国川」。上流には広葉樹を多く含む山林が広がり、年間を通して水量が豊富で、川魚の宝庫、鮎釣りのメッカとして知られる清流です。



鮎は川石の表面についた藻類を食べることで、スイカのような独特の香りがすることから「香魚」という異名を持ちます。最上小国川でとれる鮎は「松原鮎」と呼ばれ、その昔、殿様に召し上がっていただくために川を禁漁区として大切に守られていました。この環境で育った鮎は香り・味・形の三拍子そろった絶品であることから、明治天皇の巡幸の折に献上されたほどです。現在は地元漁業協同組合などが中心となり、稚鮎の放流など最上小国川の鮎を次世代に受け継いでいく活動も行われています。今回は、そんな絶品の鮎の味覚を存分に味わえるレシピを紹介します。

鮎ぶかし

- 材料(5人分)
もち米3合、鮎3尾、しょうゆ60cc、酒120cc、砂糖小さじ1
- 作り方:
①もち米はといで5時間ほど水につけておく。
②鮎は素焼きにしておく。
③焼いた鮎を鍋に並べ、鮎がつかぶ程度の水を入れ、しょうゆ、酒各60cc、砂糖で20分ほど煮含める。
④鮎を取り出し、頭、内臓、骨を除き、身をほぐす。
⑤①の水をよく切り30分ほど蒸して炊き上げる。
⑥⑤をボウル等にあけ、酒60ccと③の煮汁、④を混ぜ合わせ、20分ほど蒸してできあがり。



問い合わせ ◎ 最上総合支庁総務課 ☎0233-29-1360





おいしい山形 インフォメーション

※7月31日時点の情報です。新型コロナウイルス感染症の影響で変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。

募集

『真山形』Instagramフォトコンテスト 山形の魅力を収めた作品を大募集!

Instagramの県公式アカウントで写真コンテストを開催しています。

◆募集テーマ 県内で撮影した風景やグルメ、イベント、上質な県産品など、山形の魅力が伝わるもの。

◆賞品 年間賞(県産品ギフト5万円相当)、月間賞(同1万円相当)、ラッキー賞(同2千円相当)。

◆応募期間 令和3年3月まで(月ごとの募集となります)。

◆応募方法 山形県公式アカウント(@pref_yamagata)をフォローし、月ごとの指定ハッシュタグを付けてInstagramに作品を投稿。

◆広報広聴推進課
☎023(630)2086



※スタンプラリーに必要なスタンプブックは各道の駅で300円(税込)で購入できます。

◆事務局 東北道の駅連絡会
☎022(398)5518

◆道路整備課
☎023(630)2606



まるっと鳥海 わくわくキャンペーン2020

鳥海山をまるっと囲んだ自然豊かな環鳥海エリア(山形県酒田市、遊佐町、秋田県由利本荘市、にかほ市)の観光スポットを巡り、スタンプを集めて応募すると、抽選で地域の特産品や宿泊券が当たるキャンペーンを実施しています。

◆期間 10月31日(土)まで

まるっと鳥海わくわくキャンペーン2020

◆庄内総合支庁観光振興室
☎0235(66)5499

お知らせ

あなたのチャレンジを応援します! 若者支援コンシェルジュ

「なんでも相談窓口」に相談ください! 県内の若者(40歳位まで)が、地域活動に関して気軽に相談できる窓口を設置しています。

◆“なんでも相談窓口”
これから地域活動を始めたい方から活動中の方まで、活動を展開する上で知りたいこと、活動に関する困りごとなどの相談を受け付けます。

◆“若者サポーター”の派遣
相談内容に応じて、地域活動の実践

者(若者サポーター)が、若者の皆さんのしたいことをお手伝いします。

◆事務局 A I S O H O企業組合
☎070-5621-7111
(平日午前9時~午後7時)

若者支援コンシェルジュ

◆若者活躍・男女共同参画課
☎023(630)2262

日曜労働悩みごと相談会

労働問題に詳しい労働委員会委員による相談会を実施します。(相談無料・秘密厳守)

◆日時・会場

10月11日(日)午前10時~午後3時

○アクティー米沢(米沢市)
○鶴岡市勤労者会館(鶴岡市)

10月25日(日)午前10時~午後3時

○大手門パルズ(山形市)
○ゆめりあ(新庄市)

※要電話予約。申込みは下記まで。

◆労働委員会事務局
☎023(630)2793

秋の交通安全県民運動 (9月21日~9月30日)

日没が早まる秋は、夕暮れ時から夜間にかけて交通事故が多くなります。車も自転車もライトの早め点灯を心がけ、ドライバーはハイビームを活用し、歩行者は夜光反射材を身に付けて、交通事故を防ぎましょう。

◆消費生活・地域安全課
☎023(630)2196



9月は「県自殺対策推進月間」です
心の健康に関する相談をお受けします。
一人で悩まずにご相談ください。

◆こころの健康相談統一ダイヤル
☎0570(064)556

◆受付時間 月~金曜日(祝日除く)
午前9時~正午、午後1時~5時
※9月10日(木)から16日(水)は土日
を含め午前9時から午後5時まで
対応します。

◆心の健康インターネット相談
メールによる相談も随時受け付けて
います。

心の健康 インターネット相談

◆地域福祉推進課
☎023(630)2268

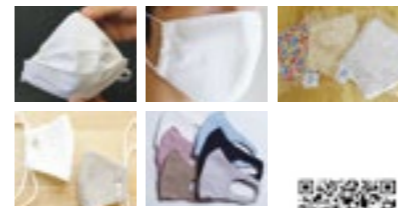
県産マスクで 新型コロナの感染防止!

咳・くしゃみによる飛沫の飛散を防ぐためマスクは生活必需品となっています。

県内では、確かな技術をもった多くの縫製事業者やニット事業者が、機能性やデザイン性に優れた様々なマスクを製造しています。

県産マスクを着用し、新型コロナの感染を防止しましょう!

県のホームページにマスクの製造事業者と販売店等を掲載していますので、ご購入の参考としてください。



◆工業戦略技術振興課
☎023(630)2553

いよいよ 始まります!



国勢調査 2020

5年に1度の国勢調査が実施されます。日本に住む全ての方を対象にした調査で、その結果は様々な施策に役立てられます。日本の「いま」を知り、「みらい」を作るための最も重要な調査です。調査書類を受け取ったら、調査スタートです。回答には、スマートフォンからもアクセスできる、インターネット回答が便利です。

- ◆回答期間 ネット回答:9月14日(月)~10月7日(水)
紙での回答:10月1日(木)~10月7日(水)
- ◆調査内容 世帯の方の年齢や職業、住居についてなど、全16問にお答えいただきます。

◆統計企画課 ☎023(630)2177



「新型コロナウイルス」相談窓口

〈受診相談センター〉

感染が心配される場合

- 風邪症状・発熱が続いている
- 強いだるさ、息苦しさ
- 発症者と濃厚接触
- 海外から帰国直後 など

1 ☎電話相談

●山形県の受診相談センター
☎0120-880006

(フリーダイヤル)

【毎日24時間対応・土日祝日含む】

2 必要な場合は
受診をご案内します

新型コロナ感染症外来

聴覚や言語機能に障がいがある方については、以下の方法により受付をしております。
ファクシミリ 023-625-4294 (月~金曜日(祝日除く) 午前8時30分~午後5時15分)

〈一般相談センター〉

コロナに対して不安に思う場合

- 新型コロナのわからないこと
- 新型コロナへの不安
- 予防方法 など

☎電話相談

●山形県の一般相談センター
☎0120-567383

(フリーダイヤル)

【受付時間 午前8時30分~午後6時・土日祝日含む】

●厚生労働省の電話相談窓口
☎0120-565653

(フリーダイヤル)

【受付時間 午前9時~午後9時・土日祝日含む】

催し物

東北「道の駅」 スタンプラリー2020

東北地方の道の駅を巡ってみませんか。道の駅には限定商品や各地の名産品が豊富に並んでいます。今なら、道の駅に設置してあるスタンプを集めて応募すると、抽選で素敵な商品が当たるスタンプラリーを実施中です。ぜひこの機会に、道の駅を訪れてスタンプを集めながら、各地域の名産品に触れてみてはいかがでしょうか。

◆期間 令和3年1月15日(金)まで

◆対象施設 東北各道の駅(163駅)



プレゼントクイズ

ヒント
4~5ページ
特集1

山形県は花きの生産が盛んで、産出額は東北○位です。○に入る数字は何でしょう。

正解者の中から抽選で右記賞品(指定はできません)をプレゼント! はがきに ①クイズの答え ②「県民のあゆみ」への感想など ③郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を記入してお送りください。

Eメールでの応募の場合は、本文に①~③を入力し、タイトル「プレゼントクイズ」で、y-ayumi@pref.yamagata.jpに送信してください。

あて先:〒990-8570(住所は記載不要です)山形県広報広聴推進課「県民のあゆみ」9月号プレゼントクイズ係

締め切り:9月30日(水)(当日消印有効) ※応募いただいた個人情報、賞品発送と「県民のあゆみ」の記事作成にのみ使用し、それ以外の目的には使用いたしません。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。



①等「つや姫」及び「雪若丸」各2kg(5名様)
※画像はイメージです。

②等「辛オニさま」【10名様】
NPO法人らっふる(寒河江市)



やまがた でん せつ 伝説 DENSETSU

「おくのほそ道」で山形を旅した 俳聖・松尾芭蕉。その像が 県内にいくつあるか知ってる？



松尾芭蕉は、江戸時代の元禄2年（1689年）、弟子の曾良を伴って今の東京から東北・北陸を旅し、俳句とともに記した紀行文「おくのほそ道」を残しました。最上町堺田から山形県に入り、尾花沢市、山形市山寺、大石田町、新庄市、出羽三山、鶴岡市、酒田市、遊佐町などを訪れ、行く先々で名句を数多く残しています。



山寺で詠んだ俳句「閑さや岩にしみ入る蝉の声」

「おくのほそ道」の旅は、行程約2,400km、156日間に及びます。なかでも最長となる40泊もの期間、昔の和歌や故事に登場する古き良き言葉や名所・旧跡が残る山形県に滞在し、地元の俳人や文化人の厚いもてなしを受け、句会に参加するなど交流を深めました。また、尾花沢の人々の勧めで、予定にはなかった山寺をわざわざ訪ね、その厳かな情景を「心が澄んでいく」と記しています。



本合海から船に乗り、残した俳句「五月雨をあつめて早し最上川」



羽黒山で詠んだ俳句「涼しさやほの三か月の羽黒山」



芭蕉は人の気持ちを感取り句に残す優しい人でした

松尾芭蕉についてお話を伺った
笹原 晋一 さん
芭蕉、清風歴史資料館 館長

尾花沢で詠んだ句「涼しさを我宿にしてねまる也」の「ねまる」は「くつろぐ」の意味で、もてなしへの感謝を込めて地元の方言を使っています。みなさんも人や風景との出会いを言葉にして伝える気持ちを大切にしたいと思います。

現在、県内の松尾芭蕉縁の地11か所で、芭蕉像や弟子の曾良を伴った像を見ることができます。そこには約330年前と変わらずに、芭蕉が感動して俳句を詠んだ当時の風景が残り、今も多くの人々を魅了しています。皆さんも、芭蕉像を訪ねながら「おくのほそ道」を巡っていきましょう。

